

北海道開発局岩見沢3事務所による「事業PRパネル展」の開催について



札幌開発建設部
岩見沢道路事務所長
三木 雅之

—「開発局」及び「今後の道路事業」等に関する

空知地方での意識調査報告—

1. はじめに

岩見沢市は、人口約8万3千人の全道12番目の都市である。支庁が置かれ空知地方の政治、経済の中心として発展してきた。

北海道開発局の出先機関としては、主に国道の改築・維持などを実施する「札幌開発建設部岩見沢道路事務所」、主に石狩川中流域及び幾春別川などの支流を管理する「石狩川開発建設部岩見沢河川事務所」、主にかんがい排水事業などを実施する「札幌開発建設部岩見沢農業事務所」の3事務所があり、古くから当該地方の社会資本整備に大いに貢献してきたところである。

北海道開発局では、近年、地域に密着した事業実施に特に力を入れており、地域を巻き込んだ種々の取り組みを実施している。

今回、岩見沢市にある3事務所は合同で、日常の市民生活に関わりの深い、道路・河川・農業の各事業についてわかりやすく解説し、それらの基盤整備・維持管理をおこなっている開発局の役割と主な事業について理解を深めてもらうことを目的に「事業PRパネル展」を開催した。

本稿は、その活動報告及びパネル展で実施したアンケート調査を基に、地域のニーズを把握・分析し、どのように今後の事業の参考にしていくかを「道路部門」に関わるものを中心に報告する。

2. パネル展

1) 開催日時

11月18日(金)・土木の日を初日とし、土日を含めた3日間で実施することにした。3事務所合同という初めての試みということを考えて、準備期間を十分とることとした。

- 開催日：平成17年11月18日(金)～20日(日)
- 時 間：9時30分から19時

2) 開催場所

多くの方々が集まってくる事を第一に考えた。昨年4月にイオンスーパーセンターが三笠市内で開店し、土日は買い物をした方で5,000組を超える入り込みとかなりの盛況な様子と伺っていた。

(株)イオンは「ボランティアサポートプログラム」に参加する、管内では唯一の企業であり、この運動の輪をこれまで以上に広げていきたいとの意味も込めて、今回はイオンスーパーセンター三笠店を会場にした。

3) パネル展概要

① 展示パネル【展示概要：写真—1、写真—2】

オープンなスペースとして使うため、各事務所毎に単柱を立て、その4面にパネルを貼ることとした。また、3事務所合同のパネルも作成し、各事務所の管轄エリアがわかる地図、簡単な事務所紹介を記載した。

道路では4面のうち3面は、現在取り組んでいる道路事業（道路の改築【図—1】、維持管理と交通安全、環境と広報活動）とし、残りの1面については、今最もホットな話題といえる道路特定財源制度【図—2】の解説とした。

開催時間中は各事務所から常時2名の者が説明要員として張り付き、種々の質問に対して丁寧に答える対応をすることとした。また、各事務所の事業概要書等



写真—1



写真—2



図一1



図一2



図一3

も広く配布した。

②開催告知

各事務所でチラシの配布を行うとともに、ポスターをJR岩見沢駅構内等の人の行き来の多い箇所に掲示した。

また、地域FMでのPR、自治体の広報誌の掲載、開催場所であるイオンの広告、各新聞社への依頼【図一三】など、幅広く広報手段を活用した。

③アンケート調査

折角の機会なので、地域住民の開発局に対する意識等の調査を実施した。また、各事務所からも、それぞれ独自に聞きたいことを2項目に限って質問することとした。

1,000票集めることを目標とするとともに、協力者には記念品【写真一三】を配布した。

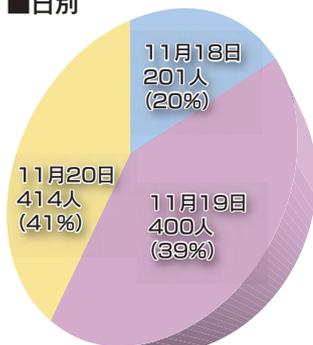


写真一3

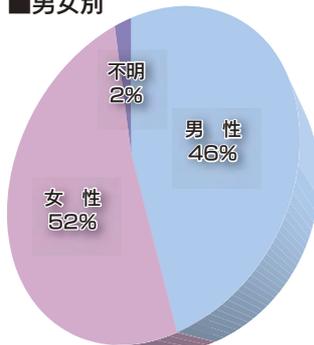
3. アンケート結果

1) 来場者プロフィール

■日別



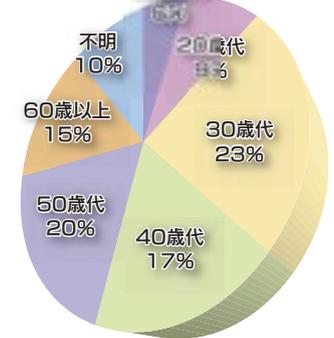
■男女別



■地域別

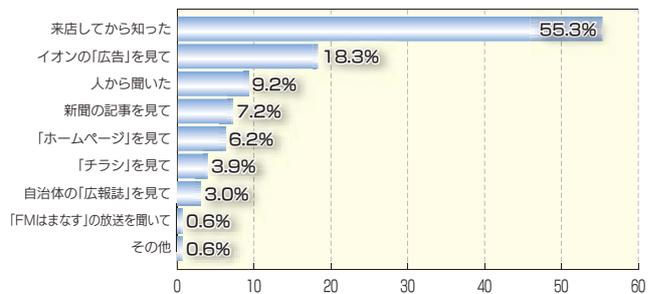


■年代別



3日間で目標を若干上回る1,015票回収することができた。地域別では岩見沢市が37%を占めた。男女別及び年代別はほぼバランスよく回収できた。

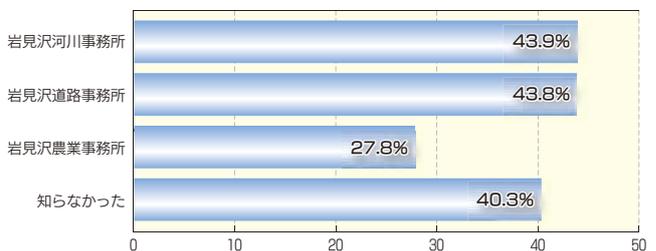
2) パネル展の認知ルート



種々の広報を実施したが、来店してから知った人が半数を超えていた。イオンの「広告」を見てきた人が20%弱あり一番効果が高かったといえる。

今後、同様なイベントを実施する際、どのように周知していくか再考しなければならない結果となった。

3) 事務所の認知度

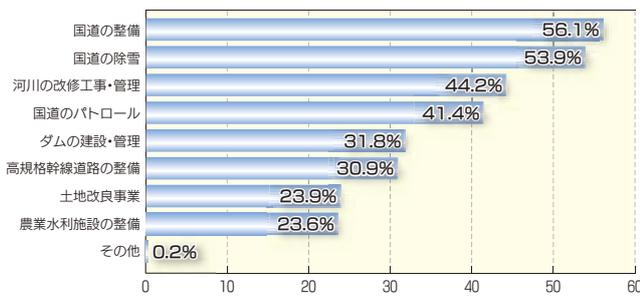


道路事務所、河川事務所はともに40%を越える方々から認知されていた。

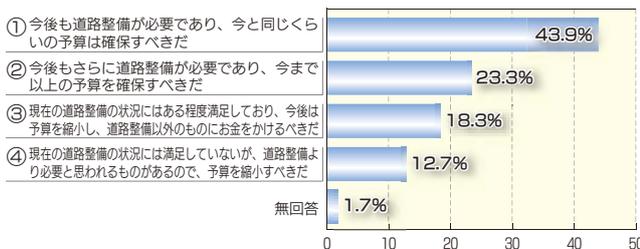
一方、40%の方々は3事務所とも知らないと答えており、今後、更に地域にとけ込む努力の必要性を強く感じる結果となった。

4) 北海道開発局で実施する事業の認知度

国道の整備、国道の除雪が1位、2位を占め、道路事業への認知度が高いことがわかった。



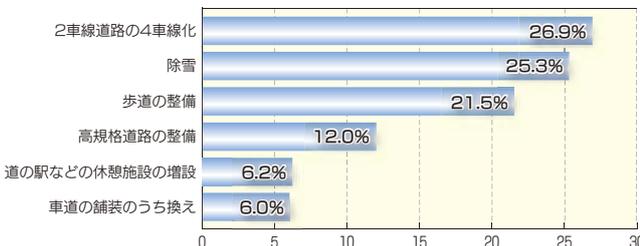
5) 今後の道路事業の取り組み方針について



今後も道路整備が必要であり、今まで以上に予算を確保、同程度の確保が必要と答えた人が合わせて67%という結果であった。一方、今後は予算を縮小すべきという意見も31%あった。

道路事業に携わるものとしては、ちょっとホッとする結果が出た。

6) 今後力を入れて欲しい道路整備



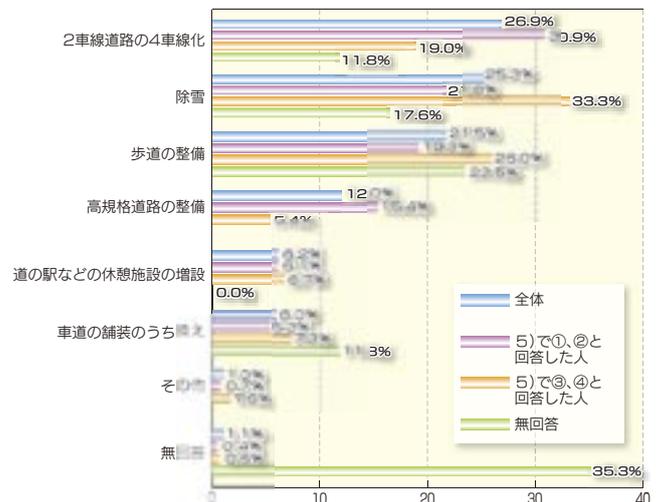
地域の特徴が出た結果となった。当事務所では国道12号の4車化に古くから着手しており(岩見沢道路:S45年事業化、三笠交差点:H2年事業化、美唄拡幅:H1年事業化)、事業の長期化が課題であり、1日も早い完成を地域の方々も熱望している結果と思量される。

また、第2位は除雪であった。札幌市の市政世論調査の中の要望する施策(福祉、教育などすべての分野で)でも昭和53年から27年連続除雪が1位を占めており、除雪に対する要望の高さは地域差があまりないと言える。

7) 5) 6) のクロス集計

予算を更に増加すべきもしくは現状維持と答えた方々は、2車線道路の4車化の要望が高い。一方、予算を縮小すべきと答えた方々でも除雪はきちんとやって欲しいと考えているようである。

以上アンケートの結果について簡単に記載させて



もらったが、男女別、年代別、職業別、地域別など更に詳しい分析を実施している。当事務所のHP (<http://www.sp.hkd.mlit.go.jp/jimusho/iwamizawa/>) に載せているので興味のある方はご覧頂きたい。

4. あとがき

各事務所においては、過去からそれぞれ単独では地域への情報発信を様々な形で取り組んできた。今年度、初めて岩見沢3事務所合同で以上のような取り組みを実施した訳であるが、やはり単独実施よりもインパクトは強かったと感じている。紙面の関係でアンケートの自由意見を記載しなかったが、「今後も続けて欲しい」という意見がたくさんあり、今後も出来ることは3事務所歩調を合わせて実施していきたいと考えている。

また、空知地方での社会資本整備という大きな枠組みを理解することが出来たし、事務所内でも他の課、係の仕事についても理解を深めることができた。さらに、事務所職員全員が一枚岩となって、早くから準備に取り組み、連帯感が生まれたなど、パネル展を開催したその意義は大きかったと考えている。

現在、「道路」を取り巻く世界では道路特定財源の見直しが大きな議論となっている。

昨年12月9日には政府・与党で基本方針が合意し、「一般財源化を図ることを前提とし、納税者の理解を得つつ具体案を得る」との方針が出された。また、基本方針の中には、「真に必要な道路は計画的に整備を進める」ともある。

アンケート結果からも、当該地区では70%近い方々が今後も道路予算の確保と整備推進を望んでいる。今後、道路特定財源が一般財源化された場合でも、管内で必要な道路事業が推進できる予算が十分確保できることを切望してやまない。